

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	鈴豊精鋼株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市緑区清水山1丁目132番
工場等の名称	鈴豊精鋼株式会社
工場等の所在地	名古屋市緑区清水山1丁目132番地
業 種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	みがき棒鋼、冷間圧造用鋼線、冷間鍛造品、みがき棒鋼切断、みがき棒鋼研磨の製造及び販売
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公 表 期 間	令和6年7月19日 ～ 令和6年10月17日		
公 表 方 法		掲 示 閲 覧	(場 所)
	○	ホ ー ム ペ ー ジ	(HPアドレス) http://www.suzutoyo.co.jp
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-621-3138		

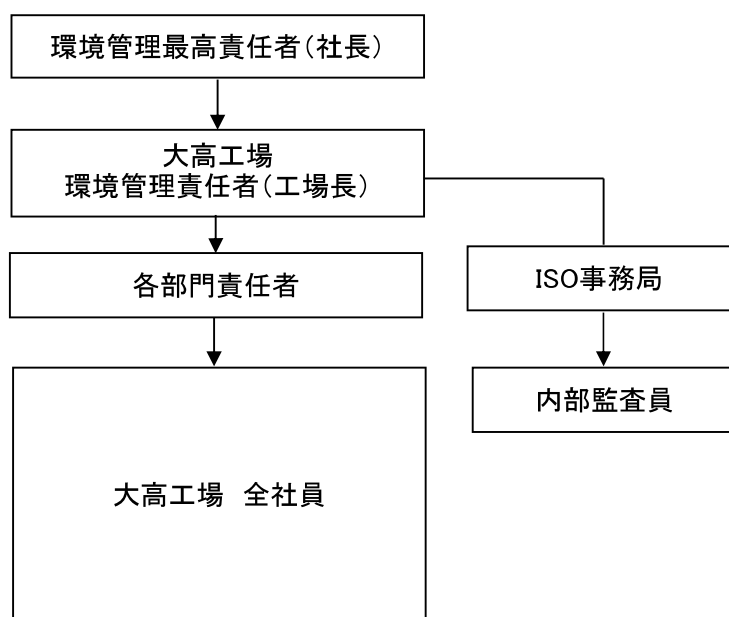
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

私達は、環境への影響を配慮し、継続的に発展させ、豊かな地域社会の発展に貢献します。

- ・温室効果ガスを前年度比1%削減を目標

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,476	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	7,476	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	41.7	kg-CO ₂ / ton	40.45	kg-CO ₂ / ton	42.35	kg-CO ₂ / ton	40.67	kg-CO ₂ / ton		kg-CO ₂ / ton
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 1.6	%	2.5	%		%
原単位あたりのみなし排出量						kg-CO ₂ / ton		kg-CO ₂ / ton		kg-CO ₂ / ton
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

23年6月から太陽光発電設備が稼働した効果が表れた。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/エネルギー使用量等の把握及び管理	・環境マネジメントシステムによる各種エネルギーの使用量の把握、計測、分析、記録を実施する	各設備のエネルギー/消費電力量を月ごとに把握し共有する	各種設備のエネルギー使用量を把握/記録し、エネルギーの使用量削減に務めた
省エネルギー・省資源の推進/設備	・工場内の各種使用設備の保全を実施する。 ・設備導入時に省エネ設備を導入する。 ・設備更新時に高効率型に更新する	設備の使用前点検を実施する 定期的な設備保全を実施する	定期的な設備保全を行い、設備導入時に省エネ設備を導入した。各種使用する設備の使用前点検を行った。
省エネルギー・省資源の推進/最大需要電力の管理	・デマンド制御装置の活用による最大需要電力を制御、管理する。 ・デマンド作動時に指定設備の停止を徹底する。	デマンド作動時、自動引抜機3台(BD8, 9, 10)及び転造/切削機を停止し、契約電力を削減する	デマンド監視を行い、デマンド作動時に指定設備の停止を徹底した。
省エネルギー・省資源の推進/冷暖房	・エアコン設定温度を冷房 使用時28℃、暖房使用時20℃の徹底 ・ブラインドの活用、窓ガラスへの断熱フィルムの貼り付け等により日射負荷を削減 ・デマンド作動時に事務所内の冷暖房を停止を徹底する	デマンド作動時、事務所の照明と冷暖房を停止する	デマンド作動時に事務所(1F, 2F)のエアコン及び照明の停止を徹底した。
省エネルギー・省資源の推進/照明	・照明は必要なときに必要な個所で使用する。 ・デマンド作動時には事務所内の照明を消灯する。 ・蛍光灯を順次LEDに更新する ・昼休みや作業を行わないところでの消灯を徹底する	工場照明更新時にLED照明にする	実施
自動車等輸送機関に対する対策	・急発進や急加速をしない、アイドリングストップ、エコドライブを徹底する。 ・日常点検を行い性能の維持を図る。 ・低公害車/次世代自動車を導入する	車種選定や更新時には低公害車を選定する。 台数を削減する	・各種車両使用時に日常点検を行い、また定期的に各車両の点検整備を行い性能維持を図った。 ・運転者がエコドライブを心掛けた ・車両更新時にPHV車両を1台導入した。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
令和5年	太陽光発電設備	最大出力300kw、年間発電量約35万kwh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用状況

計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

古紙のリサイクル(裏紙再利用等)を実施 打合せ時にPC活用による社内配布紙資料を削減。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

環境管理システムに基き、部署ごとに省エネ活動の取組み内容を再確認した。
